

第35回地盤工学研究発表会を終えて

吉 田 望 (よしだ のぞむ)

(財)地盤工学会調査部長, 佐藤工業(株)中央技術研究所 部長・主席研究員

第35回地盤工学研究発表会は、平成12年6月13日～15日の3日間、岐阜市の長良川国際会議場と岐阜ルネッサンスホテルで開催されました。会場は、学会創立50周年記念事業も行われた昨年を除けば、最近は大学等の施設をお借りすることが多かったのですが、本年度は専用の会議場とそれに隣接するホテルでの開催であり、発表や議論をする環境としては申し分のないものでした。また、会場と最寄の駅の交通が少し不便？、このためいったん会場に入ったら議論に集中できるということでも、よい環境だったと思っています。

本年度の研究発表会への発表論文数は、1298編、参加者数は2228名でした。最近5年間の平均値は1194編と2304名で、第1回の研究発表会（1966年）が400名程度の参加者であったのと比べると格段の増加ですが、参加者、論文数とも、ここ数年では大きな変化は見られません。参加者のうち論文を発表された方の比率は58.3%で、これもここ数年を見ますと、50%の前後で推移しているようで、それほど大きな差はありません。これらを見ますと、研究発表会も安定期に入っているように見えます。しかし、一方では、参加者に占める20代、30代の比率は60%以上で、活力のある発表会となっていることが分かります。

研究発表会は、学会の最も重要な行事の一つであり、調査部でもよりよい運営方法を常に模索してきました。ここ数年でも、概要集のA4判化、座長一人制、研究発表会のホームページでの公開などを行っています。本年度は、プログラム構成を、これまで主として構造物単位で行ってきたのを現象に着目して行うように一新しました。プログラム編成は非常に難しい仕事で、全員の方に満足していただけるようなプログラムは不可能と考えられます。特に最近のように発表数が多いと、同じような内容のセッションが平行して流れるようなプログラムもやむを得ないような状況になってきます。このような中で、なるべく有効にセッションに参加していただけるようにというのが今回の改定の趣旨です。会場で反応を見ていると、賛成の方もいらっしゃる反面、従来の方がよかったという方もいらっしゃいます。新しい試みはともすれば煙たがられることも多いのですが、その中で賛成していただいた方がいらっしゃったのは一応の成功かとも考えていますが、100%満足していただいているわけではないことも明らかです。今後とも会員の方々のご意見を伺い、改善していきたいと考えています。

ディスカッションセッションでは、11のテーマが選ばれました。ディスカッションセッションは、テーマを

絞ることで、セッションの活発化を図ったものですが、発表数の多さのしわ寄せを受け、ディスカッションの時間を十分取ることができず、何のためのディスカッションセッションかと厳しい意見もいただいています。来年度以降、この意見を受け止め、改善を図りたいと考えています。

発表時間が一人5分と短いことについては、常に不満を聞く問題です。今年の発表会でも変わってはおりません。この問題は多くの要因がかかわっており、容易に解決できる問題ではありません。研究発表会の性格について考え直す必要があるのかもしれませんが。研究発表会は、研究発表の場であるとともに、情報収集の場になっていると思います。この場合、限られた時間の中で多くの発表が聞けるというのも魅力になっているのではないのでしょうか。5分という時間は、研究内容をすべて紹介しようすれば短いことは間違いありません。概要集を読むだけでも不足です。発表では研究のキープポイント、最小限これだけは伝えたいということに集中していただき、研究の詳細は概要集などにゆだねるというように発表方法を工夫してくださるようお願いいたします。

本年度の研究発表会では、概要集のCD-ROM化と概要集と発表の一括申込みについてアンケートをしました。これらはこれまで調査部で検討してきた問題ですが、一度会員の皆様のご意見をうかがおうということで実施したものです。CD-ROM化には賛成の意見も多かったのですが、一方では、CD-ROMが配布されたとしても、印刷され本になった概要集を購入するであろうという意見も多く、コンピューターが発達してきたとはいえ、印刷物に対するニーズの多さに驚かされました。概要集と発表申込みの一括化については、参加に必要な費用が多くなると参加しないという意見もありました。来年の研究発表会ではこれらのことは行わないことは以前からの決定事項です。それ以後については、アンケートの結果を慎重に検討し、よりよい方向を目指していきたいと考えています。なお、CD-ROM化は行いませんが、例えば、研究発表会の申込みをインターネットで行うことのように、コンピューターの利用により楽になるものは積極的に取り組んでいきたいと考えています。

来年度の研究発表会は徳島で行われることになっております。最後になりましたが、研究発表会は調査部の行事ではありますが、実質的な運営は実行委員会を中心として支部により行われております。お世話になりました実行委員会および中部支部の方々に心よりお礼申し上げます。

(原稿受理 2000.8.2)